

## 明学グッズ・ボランティアファンド／学生チャレンジ賞

### 1. 「明学グッズ・ボランティアファンド」について

2005年秋、大学がおこなっているブランディングプロジェクトの一環として、明治学院大学ボランティアファンドの取り組みが始まった。これは大学生協で販売するグッズの開発に際し、大学と社会とを結びつける方法のひとつとして考案されたアイデアであり、グッズの本体価格10%をファンドとして積み立て社会貢献に運用する仕組みである。ボランティアファンドの積立金額は、大学ホームページでも報告されているとおり、2006年度は86万373円、2007年4月から2007年9月までの上半期は37万864円となっている。

今年度も、昨年度と同様、ボランティアファンドの総額の半額程度を限度に、大規模災害の被災者への支援のために活用した。今年度は3月25日に能登半島地震が、また7月16日には新潟県中越沖地震が発生した。ボランティアセンターでは、それぞれの地震発生後に10日間程度の期間、各キャンパスに募金箱を設置し、大学内で広く募金を呼びかけた。そこで集められた募金とファンドから、能登半島地震被災者支援募金として15万円、また新潟県中越沖地震被災者支援募金として25万円をそれぞれ義捐金として日本赤十字社等に募金した。

### 2. 学生チャレンジ賞について

今年度は、環境保護活動をおこなう学生たちを支援する「ボランティアファンド・学生チャレンジ賞（通称ボラチャレ）」が本格的にスタートした。これは、今まで活動してきた団体、またこれから活動を始めたいと願っている団体に「環境保護」に関連する企画案を応募してもらい、企画の実現を支援するプログラムである。条件は二つ。ひとつは明治学院大学の学生による団体であることと、活動範囲が白金校舎および横浜校舎やその近隣、あるいは大学ゆかりの地（小諸市など）であることとなっている。合計3団体ほどに8万円を上限とする奨励金を授与する方式で、5月の締切までに2団体3企画の応募があった。書類審査の上、応募した2団体3企画に対し、6月2日に公開プレゼンテーションが課された。6月18日に、大塩武学長、ボランティアセンター推進委員の梅田治氏、そしてボランティアセンターのスタッフによる厳正な審査が行われ、学生チャレンジ賞が次の企画に対し授与されることが決定した。

- ①企画名 mamenergy messengers 団体名 mamenergy project 代表 葛原さん（国際学科3年）
- ②企画名 アースキャンパスカフェ 団体名 Reople 代表 中溝さん（国際学科4年）
- ③企画名 明楽村 団体名 Reople 代表 中溝さん（国際学科4年）

